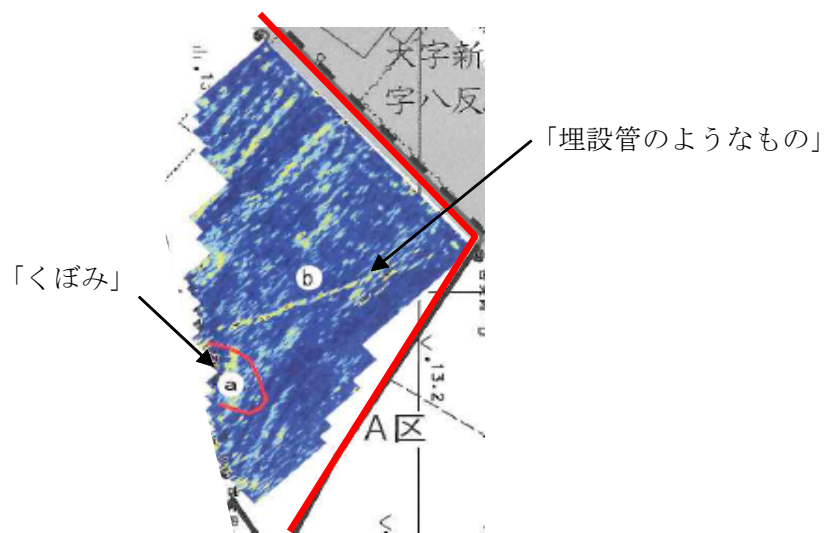


「賀古駅家、発掘ものがたり」8<地中レーダー探査>



地中レーダー探査地点の拡大図

究から導かれた遺跡の推定地点、現在の土地利用（家や道、畑の下は発掘できないので）、それに土地所有者の了解がなければ発掘調査はできません。こうした条件をクリアできたのは賀古駅家の東側に隣接する畑でした。特に地主の方のご理解がなければ土地を発掘する（＝土地に穴をあける）ことなどできません。本当にありがたいことでした。

さて、発掘する場所は古代山陽道と賀古駅家の間に挟まれた地点であり、賀古駅家の中心部ではありません。しかし、道と駅家との関係をとらえることができる重要な場所です。

いよいよ発掘・・・の前に、もう一つの調査を行うことになりました。それは、より調査を効果的に行うための「地中レーダー探査」というものです。この調査を行うことで、どれぐらいの深さにどのようなものが埋まっているのか、ある程度予測することができます。調査計画に反映させ、調査成果をフィードバックすることができます。探査を行うにあたり日本文化財探査学会に指導・協力を依頼し、現地測定・データ解析は同学会員の工藤博司氏に行っていただきました。

平成21年1月15日から3日間、地中レーダー探査を行いました。タイヤのついた箱のようなものをコロコロと転がしていくというもので、調査対象地の全面を転がして歩き回ります。得られたデータは次々とパソコンに取り込まれていき、それを持ち帰って解析した結果、地中の様子が浮かび上がりました。

成果は2点ありました。一つは駅家の東辺中央付近の深さ30cm程度のところに、直径5m、深さ30cm程の窪みの跡があるということ、もう一つは深さ60cm程度のところに、調査対象地の中央をほぼ東西に横切る「埋設管のようなもの」がある、ということです。

以上の発掘調査前の検討で、発掘調査の方針が決まりました。

①古代山陽道の確認、②賀古駅家の築地塀の確認、③地中レーダー探査の成果である「窪み」と「埋設管のようなもの」の正体をつきとめる。

調査の目的も具体的に決まりました。さあ、次号からいよいよ土の下を覗いていくことにしましょう。

（兵庫県立考古博物館 学芸員 中村 弘）